

カラーガード部が全国優勝！

8月は、各スポーツの関東・全国大会等の季節。今年も本校運動部が各大会で大活躍しました。まずは、カラーガード部が全国優勝を成し遂げ、中学バレー・ボーラ部も全国大会へ進出! 新体操部もまた、関東大会で善戦しました。

カラリガード部 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2014「優勝」

第六單元：地圖地標與方向



この衣装・このメンバーで
全国優勝!

(前列左から) 松本さん、面川さん、吉田さん、長嶋さん(後列左から) 宮氏さん、赤野さん、佐藤さん、寺島さん、成田顧問

寺島 カラーガードを始めた一員になれて良かった！

宮氏 今回の体験は格別です！ 人前でバフォーマンスを披露した後の達成感は何物にも代えがたく、練習を頑張ることができました。巡り会った先輩・後輩、応援してくれる家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

吉田 素敵な先輩たちに巡り会い、礼儀ほか沢山のことを教えていただきました。その先輩たちと優勝の喜びを分かち合えて幸せです。自分自身にも様々な気づきがあり、成長できたようになります。この部活に入つて、本当に良かった！

松本 小さな時から人前に出るのが苦手でしたが、この部活での活動を通じて、人前で踊る喜びを覚えました。全国大会では満面の笑みを浮かべて踊ることができました。限られたあと1年の中で、精一杯の努力をしていこうと思います。

面川 辛い時は、学園祭で初めて見た素晴らしい演技を思い出して頑張ってきました。上級生になり「しっかりとしなければ」という意識が芽生えました。そういう気持ちにさせてくれた部活に感謝しています。皆と優勝できてとてもうれしいです！

全国大会では、予選グレード戦で岡山理科大学附属中（岡山県）と対戦。第1セットは25-13と圧倒的。ましたが、第2セットは攻を織り交ぜた相手の攻にリズムを乱し、20-25で失いました。最終セットも調子を取り戻せず、終までリードを許す苦しい開となりましたが、エンドの花澤佳奈選手（3年）が1点を集め、19-21から6点を連取。25-21で勝利を收め、決勝トーナメントの初戦への進出を決めました。

決勝トーナメントの初戦は、聖和女子学院中（長野県）と対戦。第1セットを

関東大会当日、選手たちは朝から自分たちのペースをつかめず、どこかいつと違った様子で本番を迎えることになりました。ラストの投げ技で、痛恨のミス悔しい結果となりました。唯一の3年生で、キャプテンの小池里彩（3松／写真前列左から2人目）は、「東京都代表として関東大会に出場できたことはうれしかったです。しかし、

心理学は誤解されが
る領域です。心理学者は
見抜くプロである、あ
るいは心を操るプロで
ある、という「誤解
しまし」はしばしば私たちを困
惑させます。こうした
誤解によって、日本に
おける心理学はかなり
「軟派」に見られてい
るという現状は個人的
には無視できません。
このところ佳境を極め
ておられる「脳科学」は
多くの心理学の概念を
紹介される現象の多く
は、実際には「こうろ
う」の現象です。「ア・ハ
ー体験」、「錯覚」、目
撃者証言における「記
憶の歪み」。いずれも
心理学研究によって詳
らかにされた現象です。
神経細胞と神経細胞が
繋っていくメカニズムの
発見です。この、学
記憶の基礎である「可
能性」の概念の基礎を提案し
たのは、心理学者なのです
。どのように、心理学の多
くの領域に対する貢献が
いのほか大きく、心理
人の「こころ」の不思
議左であるでしょう
。不斷に発信する領域で
本第3回で京文堂へ！

中学新体操部／関東大会



部員35名全員でつかんだ全国大会!
写真提供=バレーボール部保護者



文京グリーンの大声援を力に健闘!
写真提供=バレー部保護者

を力に、チ
を支え続け
年生たちは
高校バレー
台で、1・
生たちは来
全国大会で
してほしい
います。

このところ佳境を極めた3次の舞の2年年のと思活躍は、実際には「こう」と思

めている「脳科学」は多くの心理学の概念をいわば「借用」していくことをご存知でしょうか。「脳科学」という名の下にメディアで紹介される現象の多くは、実際には「こう」と思

的妥当性は現在広く支持されています。こうした、得てしてその因果の方向性における誤謬を容易に示す人間は、誤った法則性を勝手に導き、それで世の中を理解したように錯覚して

Green Spirits

「こころ」の暴走と見識



人間学部心理学科長
教授

小林剛史



8月6日と7日にパシフィコ横浜で開催された「平成26年度SSH生徒研究発表会」で、本校の長倉洋里さん（3年）がボスター発表を行いました。

会場となった展示ホールには、226校の発表校（うち23校は海外招聘校）と14の連携機関のブースが設置されました。発表校各ブースは、化学・生物・物理・数学・地学・工学系などに分類され、本校は化学に所属。テーマは、この3月に筑波大学で行われた「第3回つくば科学研究コンテスト」で、「高校化学研究の部・審査員奨励賞」を受賞した長倉さんの『おせち料理を作る際にゴボウとコンニャクを同じ鍋で煮て放置したこと、これらが緑色に変色。これはゴボウのクロロゲン酸とコンニャクのアルカリ成分が反応して生じる現象です』が、長倉さんはまず、これ

文部科学省から都内女子校初のSSHの指定を受けた本校では、日々、校内外の専門家による指導が展開されています。今回は、SSH生徒研究発表会についてレポートします。

高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り⑯



ポスター発表する長倉さん

がどのような条件で生じるのかを調べました。この過程で、煮汁にも発色成分が含まれること、皮つきゴボウをコンニャクとは別に単独で煮ても発色することが判明。さらに、皮なしのゴボウでは煮汁は緑色に発色せず、皮のみのゴボウでは濃い緑色の煮汁を確認しました。発色しなかった皮なしの溶液にアルカリ性である重曹を加えたところ、濃い緑色に発色。これらの実験より、ゴボウから緑色の水溶液を作り出すための最適緑化条件を見つけ、それを用いて、緑色のグミを作りました。

8月6日と7日にパシフィコ横浜で開催された「平成26年度SSH生徒研究発表会」で、本校の長倉洋里さん（3年）がボスター発表を行いました。

がどのような条件で生じるのかを調べました。この過程で、煮汁にも発色成分が含まれること、皮つきゴボウをコンニャクとは別に単独で煮ても発色することが判明。さらに、皮なしのゴボウでは煮汁は緑色に発色せず、皮のみのゴボウでは濃い緑色の煮汁を確認しました。発色しなかった皮なしの溶液にアルカリ性である重曹を加えたところ、濃い緑色に発色。これらの実験より、ゴボウから緑色の水溶液を作り出すための最適緑化条件を見つけ、それを用いて、緑色のグミを作りました。

文部科学省から都内女子校初のSSHの指定を受けた本校では、日々、校内外の専門家による指導が展開されています。今回は、SSH生徒研究発表会についてレポートします。

これら一連の長倉さんの発表は、工夫された見やすいボスター展示と相まって、来場者の興味を喚起

し、スタートから終了まで本校ブースには常に人垣ができました。最後まで笑顔を絶やさず、丁寧に来場者に対応した長倉さんの姿を、近隣の他校ブースの生徒たちが称賛する場面もありました。コミュニケーション力に長けた長倉さん

は、時にはSSHの活動を通して知り合った他校生徒との再会を喜び合い、さらには、時にはSSHの活動を通じて、新たな学校の生徒たちとの親交も積極的に結びました。

最終的にこの研究を発展させ、安全な天然の着色料としての開発に繋げたいと思っていました」と長倉さんは語りました。現在、この研究を引き継いでくれる後輩を募集中です。

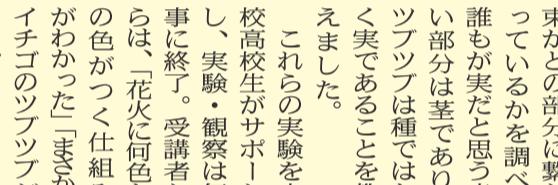
東がどの部分に繋がっているかを調べ、誰もが実たと思う赤い部分は茎であり、ツブツブは種ではなく実であることを教えました。

これらの実験を本校高校生がサポートし、実験・観察は無事に終了。受講者からは、「花火に何色も色がつく仕組みがわかった」「まさか、イチゴのツブツブが実だとは思わなかった!」と、喜びや驚きの声が聞かれました。1梅の宮川明結さんと藏満沙耶さんは、「実験に集中すると、子どもたちは一生懸命になりすぎて、私たちの話を聞いてくれない」と苦笑いしながらも「普段、私たちがSSHで学んでいることを再確認できた」と

「花火のしくみ」を学ぶ



高校生が指導
イチゴの解剖



高校生が指導
イチゴの解剖

初日は、関根謙司人間医学部教授が「ふるさと学／世界の遺産・言語・音楽」について、さらに樋口桂保健医療技術学部准教授が「はてな学／からだのひみ

「はてな学」の一環で「スバース」をテーマに、銅やナトリウムを含む試薬を使用して、炎の色の違いを

学生たち（＝児童）に確認させました。樋口准教授は「イチゴのかいぼう」を担当。実に栄養を与える維管束がどの部分に繋がっているかを調べ、誰もが実たと思う赤い部分は茎であり、ツブツブは種ではなく実であることを教えました。

同プログラムはさらに続き、10月4日（土）にはふじみ野コミュニティセンターで、東入間青年会議所ふじみ野部会による「ふるさと学／ふるさと探検」が行われる予定。そして修了式を迎える11月15日（土）には、「生き方学」をテーマに、柴田貴美子保健医療技術学部准教授と、永久ひさ子人間学部教授による講座が予定されています。

「うたつておどって手あそび」

「ロープで遊ぼう」

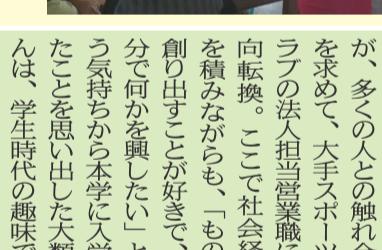
「工作体験・からだを使って感覚遊具体験」

大学 経営学部OG

大類さんがフランスで夢を実現

経営学部・櫻澤ゼミで学んだ大類優子さん（6期生）が、フランスで夢を実現させようとした奮闘中です。しかし、ここに至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。学生時代に将来の夢を抱けなかつた大類さんは、卒業後、そのままアルバイト先の企業に就職しましたが、多くの人の触れ合いを求めて、大手スポーツクラブの法人担当営業職に向転換。ここで社会経験を積みながらも、「ものを創り出すことが好きで、自分で何かを興したい」という気持ちから本学に入学したことを思い出した大類さんは、学生時代の趣味であ

り、やはり「普段、私たちがSSHで学んでいることを再確認できた」と喜びや驚きの声が聞かれました。1梅の宮川明結さんと藏満沙耶さんは、「実験に集中すると、子どもたちは一生懸命になりすぎて、私たちの話を聞いてくれない」と苦笑いしながらも「普段、私たちがSSHで学んでいることを再確認できた」と



しかし、32歳を迎えるや



「花火のしくみ」を学ぶ

国人が花屋を経営することは手

大学 子ども大学ふじみの SSH高校生がサポート

「まなびとあそびのキャンパス」大盛況!

大学 ふじみ野キャンパス

「まなびとあそびのキャンパス」大盛況!

大学 ふじみ野キャンパス

はいつ開かれるの?」の質問が出るほど大盛況! それを受け可能にしたのは、人間学部と保健医療技術学部の学生たち約130名。学部を超えて協力し合

うふんペーパー

、「練り

ろうそくづくり」、心理学

トのもと、子どもたちを思

い切り遊ばせました。柄田

原隆之人間学部准教授

が率いるバンド「CHE

ス」の音楽に合わせ、

ねえさんとあそぼう

、「はてな学」の一環で「ス

バーサイエンス実験教室

（主催＝環境教育研究セン

タ）が8月3日、ふじみ

野キャンバスで開かれまし

た。対象は近隣の幼稚・児童・保護者。

オープン・スペースでは、

ストレーニングや、工作・

感覚遊具（トランボリン、

ボールプールなど）の体験。

教室では、体幹・バラン

ス遊び。グリーンガーデン

では、畠家の中ではでき

ない「フィンガーペイントや

を生かしたマジック体

験等々。子どもたちは、

遊び。ミューズでは、

「はてな学」

をテーマに

と遊んで学ぶ

ました。主催は、工夫された見やすいボスター展示と相まって、来場者の興味を喚起

て、来場者の興味を喚起

ることに成功しました。

これら一連の長倉さんの発表は、工夫された見やすいボスター展示と相まって、来場者の興味を喚起

て、来場者の興味を喚起